

「水田」というものに心を引かれる。街中で育ったことが原因であろうか。学生の頃、郊外の友人のところへ遊びに行くとき、電車の窓からのぞいた田園風景に心が弾んだ。特に、夕暮れ時の水の張られた水田は真実に美しい。水面に反射した夕焼けのグラデーションが地面を埋め尽くし、無限のピンクやらブルーが地平線を彩る。

田はこのように人間に癒しを与えるだけでなく、経済的な価値も十二分に有している。まず、田んぼには地下水や河川の涵養機能がある。加えて洪水の防止をするとともに、土壌の流出防止、生態系保全、気候緩和、景観保全など、さまざまな機能が備わっている。これらを経済価値に換算すると、およそ8兆円になるという試算もあるそうだ。

このような水田が大好きな私であるが、先日、面白いものを発見した。それはバケツ稲づくりである。文字通り、バケツを使って稲を手軽に家庭で育てるのである。これは楽しそうだと思い実践してみた。

栽培方法は次のとおり。

① 種子の分類

塩水につけて沈んでいる種子を選ぶ、重い種は栄養がある。

② 芽だし

4月下旬、種を水につけておくと、1週間程度で芽・根が出てくる。

③ 土の準備

15ℓ以上のバケツに、黒土を中心に比較的重たい土を入れる。

④ 種まき

5月上旬、芽だしをした種もみを7～8mmの深さに植えてバケツにたっぷり水を与える。気温は16～28℃が適温。

⑤ 苗の移し変え

10日ほどで葉が3～4枚に増えたら、良い株を3～5本選んでバケツの中心に植え、根づくまでたっぷり灌水する。

⑥ 分けつ

6月中、茎が増える生長期。生長が盛んで水深は5cmに保つ、高温になりすぎないように注意。

⑦ 中干し

7月中旬、草丈40～50cm・茎が15本くらいになると一度水を抜き、5日間ほど根に酸素を供給して丈夫な株にする。

⑧ イネの開花

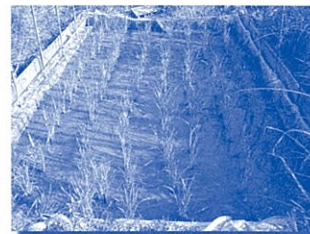
8月、分けつが終わると次世代のために幼穂をつけて開花する。

⑨ 収穫

9月～10月、開花後1ヶ月以上かけてお米ができる。収穫の10日前ほど前に水抜を抜いてから収穫し、収穫後は10日ほど穂を下にして乾燥させる。

なお、稲は日の長さが短くなると花が咲く短日植物なので、8月以降は街灯が夜に当たらないように注意する。

以上のように、簡単に(?)家で稲づくりを体験できる。現在、本校の一角をお借りして栽培中だが、順調に育っている。秋の収穫が今から楽しみだ。また、子供でも気軽に栽培でき、自然を身近に感じることができる。皆さんのご家庭でも、一家に一台、バケツ稲を置いてみてはいかがでしょうか!?



参考: J A 全中 バケツ稲ネットワーク
<http://www.ja-group.or.jp/baketsuine/clinic/index.html>